

自己評価および外部評価結果 ユニット1

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念・介護誓約をリビングに掲示。毎朝の朝礼にて復唱している理念に介護誓約を加え認識を深めている。	事業所理念「利用者の個性を正しく認識し、それに合わせた介護支援を行う」と介護の基本となる内容の介護誓約があり、朝礼で唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	職員の出退勤時、入居者様との散歩の時には、積極的な挨拶を心がけている。回覧板やイベントへの誘い呼びかけを行い、自設駐車場の一時無料提供などで、近隣の方々との馴染みの関係を築いている。	地域の朝の掃除に参加している。また、近隣のお寺で行なわれる「数珠回し」へ参加している。施設の駐車場を開放して近所の子供たちがサッカーをしたり庭に咲く桜のお花見に近隣の人達が訪れている。利用者との散歩時には、犬を散歩している方も多いので挨拶や会話をし馴染みの関係性を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや地域住民の来園を積極的に受入れて、施設内の様子や入居者様の様子を知っていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、地域の方々、地域包括の管理者に参加いただき、入居者様の様子、ホームの取組み等を報告し、情報の共有とアドバイスを受けて、サービスの向上に努めている参加メンバーを広げるため地域の区長から民生委員への声掛けをしていただけることになっている。	2か月に1度、金曜日に開催。地域の役員や家族の参加が無い様である。地域の役員さんも交代をされており参加が得られない状況である。	地域に密着した施設として民生委員さんにも参加を促されている。また、家族の協力が得られる様依頼されているので引き続き協力をいただくよう声掛けしていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事あるたびに相談報告するようし、確認を取りながら、運営するようになっている。事故報告や相談は主に事務長がおこなっており、管理者は部会の機会に市職員との繋がりを深められるよう心がけている。	市の窓口に出向き、相談や報告をしている。急ぐ場合は電話にて相談を行っている。研修会や部会にも参加し市の職員と連携が取れるように努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会において、拘束の必要性や、継続・中止に関して話し合い、出来る限り拘束のないよう努めている。介護現場においても、介護職員間で声掛けによる周知を心掛けあっている。	身体拘束についての研修会への参加者が少ない。全職員への周知徹底については、毎日のケアの中でその都度具体的に身体拘束について説明している。センサーマットの使用が長引かないように、生活の把握などを行う。スピーチロックがないように職員間で声掛けをし合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会において、虐待に関する事柄について、確認し日々の気になる点についても話し合っている。職員入居者様とのなれ合いからくる言動にも注意し合い、入居者様の重篤化による介護職員への負担軽減になるよう、複数での対応を実践し、事故や虐待の防止につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度については、積極的に学ぶよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と話し合いで、理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や来園時にご意見・ご要望を伺っている。フロアで記録している姿は、座って仕事(介護)をしていない様に見えるとの一部ご家族からの意見を受けて改善に努めた。好評の近況報告の継続。ご家族の意見苦情等も運営工場のチャンスと受止め、改善に努めている。	来園時に家族からの意見の聞き取りや説明を行っている。また、敬老会にあわせて家族会を開催しその時に意見を聞き取っている。衣類の入れ間違えをなくす工夫では、たまたみながら名前が薄くなっている場合記入するなど改善策を講じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的に職員の意見を吸い上げ、皆で共有し、改善に努めている。業務中のわずかな時間でもミーティングを行い、意見要望等を吸いあげ、ケアに生かしている。	全体会議への職員の出席の機会は少ないが、申し送りノートにパート・職員が意見を記入し、管理者がまとめて代表者に要望を提出し話し合う機会を設けている。職員間でのルール作りと自分から情報を集めケアに生かせるよう意識作りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料は処遇改善加算を利用して水準を上げている。また、職員自ら自己評価を行ってもらうことで、個々の意識を高められるようにした。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・勉強会の機会はあまり設けられなかった。職員の介護業務に対して、習熟度表を作成し、育成に取り組んだが、体調不良や職員都合による退職が重なり、継続困難にて中断している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内7つのグループホーム部会は、3カ月に一度開催されており、意見や情報の交換が持っている。また、管理者は坂戸市介護事業者連絡会の役員を経験させていただき、地域密着への意識を深めサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴や穏やかな接遇を心掛け、不安な気持ちに寄り添い、本人の思いを受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時によく不安や要望を伺って、可能な限り対応していくことを伝え、安心感を持ってもらえるよう努めている。また、担当スタッフを定めご家族が話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所として、どのような対応が出来るのか事前に話し合い、ご家族の要望と利用者様に合ったサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来る事柄に応じた役割を探して一人ひとりが充実感を持って、共に暮らす関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外食や散歩等、わずかな外出でもよいので、可能なご家族様には、ご協力いただいている。ご親族との関わりが遠い方へも、事務手続き等を理由にご来園頂いたり必要物品を届けて頂く依頼で、来園していただけるよう工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの理髪店への送迎は継続している。プールへの同行は困難だったため、ご友人の協力、ご親族のご理解のうえ外食という形で、ご友人との馴染みの関係は継続している	馴染みの理髪店への送迎は職員が行っている。外出には、友人や家族の協力を得て馴染みの場に継続して出掛けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を注意深く観察し、状況に応じて間に入ったり、離れて気分転換を図ったりと、良好な関係になるよう努めている。女性同士の小声での会話は、ほかの入居者様には悪口に聞こえたり、男性同士では、手が出たりすることもあるので、入居者様の会話や空気感にも注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前退去された方が、行事にお誘いすると、ご家族とともに参加して下さったことがあったが、時の移ろいとともにもそのようなことは、なくなった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集や日々の関わりのなかで、把握に努め暮らしやすさや安心を与えられるよう配慮している。意思の疎通が困難な場合は、会話や関わりの中から、思いや意向を把握するよう努めている。	入居の際のアセスメント時に希望を聞き、意向に沿った支援が出来る様に努めている。毎月モニタリングを行い確認し見直しを行っている。日頃の関わりの中でも意向を把握し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族から生活歴や生活習慣、食生活等出来るだけ詳しく聞き、スタッフはその情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり出来ることは行ってもらよう声掛けし、変化を見逃さない様注意している。ひびのかかわりで得られたことは、職員間で共有されるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケース会議で個別検討し、全体会議で再検討見直し変更して、介護計画書に反映させている。家族から要望があれば、ケアマネージャーに伝え、内容に付加している。可能な限りケアマネに会議に参加してもらい、スタッフとの意見を交わしている。	職員が、日常の支援の場で気づいた事を情報収集ノートに記入し、ケース会議に諮り検討している。月1回全体会議で再検討して情報の共有を行い介護計画に反映させている。	ケアマネージャーや非常勤職員も含めて、可能な限りケース会議に参加し現状に即した介護計画を作成することが望まれる。また、会議録を作成し保存する事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言葉や本人の思いが表れている事柄は、介護記録に残して、カンファレンスやケアの見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入退院時に送迎車を出したり、利用者の通院・訪問診療・訪問歯科・訪問美容等、個々に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協ボランティア等を利用させていただき、入居者様の豊かな暮らしづくりに協力していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	坂戸内科医院の医師(法人代表)により週1回の訪問診療と毎日のDr.FAXで健康管理がなされている。本人や家族の希望する病院受診も受けられるよう支援している。	入居時に本人・家族の希望を聞き対応している。主治医との連携が密に行われていくことが入所時の決め手にもなっている。変化があった場合にも訪問、電話対応がされており夜勤をする職員の安心にもつながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し、少しでも気になることがあれば、看護師に相談することが定着して訪問看護ステーションと連携し、少しでも気になることがあれば、看護師に相談することが定着している。介護職、看護師、医師との連携はとてうまく行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	見舞いに行った際、情報交換や相談に努め、かかりつけ医との連携を図り、早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期に向けて、事業所でできることを説明している。実際に終末期になった場合家族と関係者として、話し合いをもち、家族の要望を取り入れた支援に努めている。	入居時に終末期に向けての対応を説明し話し合っている。家族と時間を調整し、終末期の向けての話を定期的に行っている。医療依存度の高い入居者も多く、職員も看取り経験がある職員が多い。24時間医師・看護師との連携がとれる体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害対策について運営推進会議で協力を呼びかけ、相談にのっていただいている。実際の水害時、避難にまでは至らなかったが、連絡系統の実践ができた。非常時の備品の準備はできている。	施設のすぐ側に堤防があり水害についての対策を話し合い避難場所が遠いため施設の2階に避難して救助を待つことが現状ではベストではないかと市よりアドバイスを頂いている。火災訓練は定期的に行い備蓄の準備も出来ている。	近くに河川があるため、水害対策について、消防署等の関係機関に相談をし意見交換を行い、対策が検討されることを望まれる。日頃から近隣との付き合いを密にして助け合える関係を築くことを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊敬の気持ちを忘れずに声掛けや対応をするようにしている。また、さり気ないトイレ誘導や居室でのケアをするようにしている。	トイレの誘導はさりげなく声がけをし、他の利用者に気づかれないような配慮をしている。日常のケアではスピーチロックがないように職員全員で気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「○○しませんか？」「○○しましょうか？」等、返事ができるような問いかけをこころがけている。複数の選択肢を提案して、利用者様が自分で決める場面をつくるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り利用者様の意思を尊重し、その人のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様に選んでいただいているが、困難な場合は、好まれていたであろう身だしなみ季節に合ったものを、用意させていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き片付け等出来る範囲のことをしていただいている。スタッフ、利用者様が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。	調理専門の職員が、カロリーやバランスの取れたメニューを考え美味しい食事を提供している。職員も同じテーブルで楽しく食事できるように心がけている。利用者は、箸の準備、食事後の後片付けなど自分の出来る事を行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日記録して、スタッフが情報を共有している。利用者様の状態に応じて、水分を勧めたり、ゼリーなども取り入れた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残存能力に応じた声かけや介助を行っている。就寝時には義歯を入れ歯洗浄している。また、訪問歯科医の協力を得て、改善方法の指示も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表により、一人ひとりの排泄パターンを把握して、そのひとに合った声掛けや誘導を行っている。無理のない範囲で、トイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表、パターン表で個々に排泄間隔やパターンを把握し対応している。個別に声掛けをし、無理の無い範囲でトイレに誘導して自立に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日便秘者確認をして、排泄パターンを把握しつつ、乳製品やオリゴ糖入りの飲み物を進めたり、歩行運動の支援にて対応。薬剤や看護師による処置も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中ではあるが、希望者は毎日のように入浴していただいている。おむね週2～3回は入浴していただいている。	入浴日、時間など利用者の希望に応じて入浴できるよう支援している。声掛けをして都合が悪い時は日にちを変更して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	にっちゅうの活動を促し、天気の良い日には布団を干し、室温調節にも気を付けて、気持ちよく眠れるよう支援している。夜間眠れない方には談話や温かい飲み物などにて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて確認を行う。薬の変更・追加の情報や副作用を申し送りにて共有。薬の内容を理解し、的確に服薬支援を行い、状態確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵を描く、飾りを作る等個々の得意分野でイベントなどのお手伝いをお願いしている。歌が好きの方が多く、一緒に歌を歌って楽しんでいただいている。体操やことわざのゲームなどで気分転換して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様個々の状態に合わせて、外出支援を工夫している。ご家族へ協力をお願いして、外出の機会を増やすよう心がけている。散歩ボランティアを探したが、見つからず、外出ボランティアは断念した。	近隣への散歩、個別にコンビニまで車椅子で買い物に行ったり、季節の花を見に出かける支援をしている。また、家族の協力を得て利用者の希望の場所に外出できる様支援をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で預かって管理しているが、一部の方はご家族了解の上所持されている。散歩にいった時など、買い物をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	少数だが、利用者様の希望に応じて、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の変化に合わせて、リビングの掲示版の飾り付けを変えて、季節を感じていただいている。行事の写真も掲示してあるので、利用者様は楽しまれている。テーブルには散歩時摘んできたきれいな花が飾られることもある。	リビングには、インフルエンザ対策で加湿器数台を設置し、換気を心掛けている。玄関やリビングには季節の花が活けてあり季節感を感じる。廊下やリビングの壁には利用者の手作りの作品や行事などの写真が飾られており見て楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テーブル席以外にソファが置かれ利用者様同士が寛げる居心地の良い空間になるようにしている。車いすを自走される方も自由に行き来しやすい空間になるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは自由で、馴染みの家具・仏壇など持ち込まれている部屋もあり、その人らしい居室になっている。	南向きの居室は日当たりも良く、窓からは庭の花木や木々の緑が見えて居心地の良い環境である。居室には、ご本人が工夫され家族や孫の写真など貼られていてその人らしい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、共用のトイレ、浴室廊下には手すりが付いており、安全で自立した生活が送れるよう工夫されている。廊下のソファを撤去したことで自力での歩行ができる方が増えた。		

自己評価および外部評価結果

ユニット2

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念・介護誓約をリビングに掲示。毎朝の朝礼にて復唱している理念に介護誓約を加え認識を深めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員の出退勤時、入居者様との散歩の時には、積極的な挨拶を心がけている。回覧板やイベントへの誘い呼びかけを行い、自設駐車場の一時無料提供などで、近隣の方々との馴染みの関係を築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや地域住民の来園を積極的に受け入れて、施設内の様子や入居者様の様子を知っていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、地域の方々、地域包括の管理者に参加いただき、入居者様の様子、ホームの取組み等を報告し、情報の共有とアドバイスを受けて、サービスの向上に努めている参加メンバーを広げるため地域の区長から民生委員への声掛けをしていただけることになっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事あるたびに相談報告するようにし、確認を取りながら運営するようにしている。事故報告や相談は主に事務長がおこなっており、管理者は部会の機会に市職員との繋がりを深められるよう心がけている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会において、拘束の必要性や、継続・中止に関して話し合い、出来る限り拘束のないよう努めている。介護現場においても、介護職員間で声掛けによる周知を心掛けあっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会において、虐待に関する事柄について、確認し日々の気になる点についても話し合っている。職員入居者様とのなれ合いからくる言動にも注意し合い、入居者様の重篤化による介護職員への負担軽減になるよう、複数での対応を実践し、事故や虐待の防止につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度については、積極的に学ぶよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と話し合いで、理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や来園時にご意見・ご要望を伺っている。フロアで記録している姿は、座って仕事(介護)をしていない様に見えるとの一部ご家族からの意見を受けて改善に努めた。好評の近況報告の継続。ご家族の意見苦情等も運営工場のチャンスと受止め、改善に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的に職員の意見を吸い上げ、皆で共有し、改善に努めている。業務中のわずかな時間でもミーティングを行い、意見要望等を吸いあげ、ケアに生かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料は処遇改善加算を利用して水準を上げている。また、職員自ら自己評価を行ってもらうことで、個々の意識を高められるようにした。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・勉強会の機会はあまり設けられなかった。職員の介護業務に対して、習熟度表を作成し、育成に取り組んだが、体調不良や職員都合による退職が重なり、継続困難にて中断している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内7つのグループホーム部会は、3カ月に一度開催されており、意見や情報の交換が持っている。また、管理者は坂戸市介護事業者連絡会の役員を経験させていただき、地域密着への意識を深めサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴や穏やかな接遇を心掛け、不安な気持ちに寄り添い、本人の思いを受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時によく不安や要望を伺って、可能な限り対応していくことを伝え、安心感を持ってもらえるよう努めている。また、担当スタッフを定めご家族が話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所として、どのような対応が出来るのか事前に話し合い、ご家族の要望と利用者様に合ったサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来る事柄に応じた役割を探して一人ひとりが充実感を持って、共に暮らす関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外食や散歩等、わずかな外出でもよいので、可能なご家族様には、ご協力いただいている。ご親族との関わりが遠い方へも、事務手続き等を理由にご来園頂いたり必要物品を届けて頂く依頼で、来園していただけるよう工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの理髪店をの送迎は継続している。プールへの同行は困難だったため、ご友人の協力、ご親族のご理解のうえ、外食という形で、ご友人との馴染みの関係は継続している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を注意深く観察し、状況に応じて間に入ったり、離れて気分転換を図ったりと、良好な関係になるよう努めている。女性同士の小声での会話は、ほかの入居者様には悪口に聞こえたり、男性同士では、手が出たりすることもあるので、入居者様の会話や空気感にも注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前退去された方が、行事にお誘いすると、ご家族とともに参加して下さったことがあったが、時の移ろいとともにそのようなことは、なくなった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集や日々の関わりの中かで、把握に努め暮らしやすさや安心を与えられるよう配慮している。意思の疎通が困難な場合は、会話や関わりの中から、思いや意向を把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族から生活歴や生活習慣、食生活等出来るだけ詳しく聞き、スタッフはその情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり出来ることは行ってもらうよう声掛けし、変化を見逃さない様注意している。ひびのかかりで得られたことは、職員間で共有されるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケース会議で個別検討し、全体会議で再検討見直し変更して、介護計画書に反映させている。家族から要望があれば、ケアマネージャーに伝え、内容に付加している。可能な限りケアマネに会議に参加してもらい、スタッフとの意見を交わしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言葉や本人の思いが表れている事柄は、介護記録に残して、カンファレンスやケアの見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入退院時に送迎車を出したり、利用者の通院・訪問診療・訪問歯科・訪問美容等、個々に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協ボランティア等を利用させていただき、入居者様の豊かな暮らしづくりに協力いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	坂戸内科医院の医師(法人代表)により週1回の訪問診療と毎日のDr.FAXで健康管理がなされている。本人や家族の希望する病院受診も受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し、少しでも気になることがあれば、看護師に相談することが定着して訪問看護ステーションと連携し、少しでも気になることがあれば、看護師に相談することが定着している。介護職、看護師、医師との連携はとてうまく行われて		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	見舞いに行った際、情報交換や相談に努め、かかりつけ医との連携を図り、早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期に向けて、事業所でできることを説明している。実際に終末期になった場合家族と関係者等で、話し合いをもち、家族の要望を取り入れた支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害対策について運営推進会議で協力を呼びかけ、相談にのっていただいている。実際の水害時、避難にまでは至らなかったが、連絡系統の実践ができた。非常時の備品の準備はできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊敬の気持ちを忘れずに声掛けや対応をするようにしている。また、さり気ないトイレ誘導や居室でのケアをするようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「○○しませんか?」「○○しましょうか?」等、返事ができるような問いかけをこころがけている。複数の選択肢を提案して、利用者様が自分で決める場面をつくるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り利用者様の意思を尊重し、その人のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様に選んでいただいているが、困難な場合は、好まれていたであろう身だしなみ季節に合ったものを、用意させていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き片付け等出来る範囲のことをしていただいている。スタッフ、利用者様が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日記録して、スタッフが情報を共有している。利用者様の状態に応じて、水分を勧めたり、ゼリーなども取り入れた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残存能力に応じた声かけや介助を行っている。就寝時には義歯を入れ歯洗浄している。また、訪問歯科医の協力を得て、改善方法の指示も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表により、一人ひとりの排泄パターンを把握して、そのひとに合った声掛けや誘導を行っている。無理のない範囲で、トイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日便秘者確認をして、排泄パターンを把握しつつ、乳製品やオリゴ糖入りの飲み物を進めたり、歩行運動の支援にて対応。薬剤や看護師による処置も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中ではあるが、希望者は毎日のように入浴していただいている。おおむね週2～3回は入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	につちゆうの活動を促し、天気の良い日には布団を干し、室温調節にも気を付けて、気持ちよく眠れるよう支援している。夜間眠れない方には談話や温かい飲み物などにて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて確認を行う。薬の変更・追加の情報を申し送りにて共有。薬の内容を理解し、的確に服薬支援を行い、状態確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵を描く、飾りを作る等個々の得意分野でイベントなどのお手伝いをお願いしている。歌が好きの方が多く、一緒に歌を歌って楽しんでいる。体操やことわざのゲームなどで気分転換して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様個々の状態に合わせて、外出支援を工夫している。ご家族へ協力をお願いして、外出の機会を増やすよう心がけている。散歩ボランティアを探したが、見つからず、外出ボランティアは断念した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で預かって管理しているが、一部の方はご家族了解の上所持されている。散歩にいった時など、買い物をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	少数だが、利用者様の希望に応じて、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の変化に合わせて、リビングの掲示版の飾り付けを変えて、季節を感じていただいている。行事の写真も掲示してあるので、利用者様は楽しんでいる。テーブルには散歩時摘んできたきれいな花が飾られることもある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テーブル席以外にソファが置かれ利用者様同士が寛げる居心地の良い空間になるようにしている。車いすを自走される方も自由に行き来しやすい空間になるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは自由で、馴染みの家具・仏壇など持ち込まれている部屋もあり、その人らしい居室になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、共用のトイレ、浴室廊下には手すりが付いており、安全で自立した生活が送れるよう工夫されている。廊下のソファを撤去したことで自力での歩行ができる方が増えた。		